

第4回国際マイノリティアーティストコンテスト

2025/12/03

国連人権高等弁務官事務所

11月25日、2025年国際マイノリティアーティストコンテストの授賞式がスイス・ジュネーブで行われた。2025年のテーマは「帰属・場所・喪失」。強制移動、環境破壊、構造的レイシズム、世代間トラウマによってアイデンティティが形づくられてきた世界中のアーティストから、240点以上の作品が寄せられ、その中から4人が受賞し、さらに4人が特別賞に選ばれた。

「アートは私の存在であり人生である。アートなしでは、私は生き延びることができなかった」とクルドとシリアにルーツを持つドイツ在住で元政治囚の Kheder Abdulkarim は語った。彼の作品は、迫害をうけ文化や存在が抹消されそうになった経験にもとづくもので、今回特別賞を受賞した。受賞者の一人、パレスチナとシリアにルーツを持つダンサー・振付師である Alia Al-Saadi は、ヤルムークにあるパレスチナ難民キャンプ*で難民三世として生まれた。彼女は自身のパフォーマンスについて、「暴力に長くさらされることで衝撃を感じなくなる心理的麻痺の状態」を表していると述べた。さらに、若者部門での受賞者、ジャマイカ出身でバルバドスに拠点を置く Lindsee Collins の作品は、アートと法の交差点に焦点を当てている。「多くのマイノリティの物語はこれまでマイノリティ自身で語られませんでした。だからこそ、正義と帰属意識とは、自分たちの物語を取り戻し、自らの視点で語り直すことなのです」。

*シリアの首都ダマスカス近郊に位置する

** 受賞作品集はこちらから

【記事全文】 [Minority artists transform loss into resistance and belonging](#)